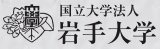




岩手大学教職大学院



# NEWS Letter

岩手大学大学院 教育学研究科 教職実践専攻



問合先: 岩手大学教育学部 〒020-8550 岩手県盛岡市上田3丁目18番33号 TEL.019-621-6504 FAX.019-621-6600  
E-mail edu jim@iwate-u.ac.jp URL https://www.edu.iwate-u.ac.jp/master/

この冊子はグリーン購入法に基づき基本方針の判断基準を満たす用紙を使用しています。



「教育実践研究の成果」を更新して公開中  
教職大学院ホームページにてご覧いただけます!

<https://www.edu.iwate-u.ac.jp/master/>

岩手大学大学院教育学研究科研究年報  
オンラインISSN 2432-924X

第4巻 (特集論文4編、論文17編、計21編を収録)

岩手の教育課題に関する論文の特集を常設しました!

- 菊池はるひ・清水将 (2020) ゴール型への接続を意識した運動有能感を高める鬼遊びの教材開発
- 町畑光明・遠藤孝夫・鈴木久米男・多田英史 (2020) 「豊かな心の育成」に関する研究～道徳教育のマネジメントを通して～
- 小山聖佳・東信之・佐々木全 (2020) 岩手県における「校長及び教員の資質の向上に関する指標」の活用事例-教職大学院学卒院生の省察による試み- 他18編

## 教職大学院に入学して

4月に入学した現職院生と学卒院生は、それぞれの思いを胸に、席を並べ(しかし、3密回避を心がけ)、学びあっています。

M1 阿部尚史 [現職院生、学校マネジメント力開発プログラム]

私たち現職大学院生は、理論と実践を教育活動の両輪ととらえ、その両面をバランスよく学んでいます。学卒の大学院生、小学校・中学校・高等学校の教員をはじめ、現場での経験豊かな教授らに囲まれて、自分の専門教科や学校種を超えた多くの経験をするとともに、活発な意見交換からたくさんの刺激と深い学びをさせてもらっています。

M2 田村紘大 [学卒院生、授業力開発プログラム]

私は教職大学院の講義や演習、実習を通して、より専門的な学びを得ています。前期は原則としてオンラインでの授業となりましたが、学卒の同期や現職の先生方とグループワークやディスカッションで積極的に意見を交わしています。大学院修了後に生かしていくため、これからも日々の学びを大切にしていきたいと思っています。

## 授業力開発実習での学びと手応え

教職大学院では、**スクールリーダー**と**即戦力の新任教員**の養成を目指し学修が進められています。本号では、6月の授業力開発実習の様子についてご紹介します。



M2 若松優子

[現職院生、実習校:盛岡市立仁王小学校]

今回の実習では、担当学級の課題解決のための方策を、現状を把握し担当教諭との話し合いの中で考え実践につなげることができました。カンファレンスを通し、子どもとの接し方、授業、支援の手立て等改めて考え学びの振り返りとなりました。1時間の授業、一日の学級経営等の小さなPDCAサイクルが教員の指導力向上につながることを実感でき今後の研究に活かしたいと考えています。

M2 高橋龍太郎

[学卒院生、実習校:盛岡市立河南中学校]

生徒と関わる中で手応えややりがいを感じた一方、理論を実践化する難しさを改めて感じた実習でした。今後は今回の実践を振り返り、理論を更新して研究を深めようと思います。大学院で学び、いかなる授業も改善の糸口は常に目の前の子どもの姿にあると考えるようになりました。学習者目線で実践を見つめ、理論と往還しながらよりよい学びの場の創造を目指します。



融合。実践の理論と

## 教育実践研究・中間発表会

7月31日(金)の中間発表会に向けて、M2の院生は周到に準備をしました。今年度は、リモートでの発表を併用、切磋琢磨しました。



M2 三浦健

[現職院生、授業力開発プログラム]

『「数学的な見方・考え方」を働かせ見通しをもって学ぶ児童の育成』をテーマとし、実践研究を進めています。連携協力校での授業実践において、自身で整理した数学的な見方・考え方を児童と共有しながら課題解決に向かいました。中間発表会で成果と課題を明らかにし、岩手の児童の学力と教員の授業力の向上をさらに目指していきます。



M2 原田孝祐

[学卒院生、特別支援教育力開発プログラム]

この中間発表は、年度末の研究報告の発表に向けた最後の中間発表であり、私の研究の方向性やまとめ方について、他のプログラムの院生や教授の方から意見を貰える、貴重な機会だと思っています。中間発表に向けて、これまでの実践や研究の成果を確認し、充実した時間となるよう、しっかりと準備していきたいと思っています。

## 連携協力校の校長として感じること

盛岡市立緑が丘小学校 校長 阿部 真一

本校は、岩手大学教職大学院の連携協力校として5年目を迎えました。その間、現職3名と学卒4名の院生を迎え、マネジメント力・授業力・子ども支援力の目的的な実習とともに、実践実習と呼ばれる日常的な実習を行いました。特に、学卒院生にとっての2年間は、教育現場に立つまでの準備期間として重要な貴重な経験になっていると実感しています。実習校での実習は、教職大学院が掲げる理論と実践の往還と融合の要であり、実践と結びつけて理論を理解したり、理論に基づいて実践を行ったりする大事な機会となっています。

今年度、本校に教職大学院を修了した教員が初任者として着任しました。学級の問題を分析・考察し、対策を立てて問題解決を図るときに、教職大学院での学修と経験が生かされていると感じます。何よりも自ら考え実践し省察しながら自己を成長させる学びの習慣が身につけていることに感心しました。実習を含めた教職大学院での学びは、間違いなく即戦力として活躍する教員を育てる重要な学びになっていることを強く感じています。



## 教育学研究科教員挨拶

研究科長 田代 高章

この4月より教育学研究科長を務めています。本教職大学院も平成28年の創設以来5年目を迎えました。この間、3期までの修了生を教育行政・学校現場等に送り出しています。教職大学院では、教師が子どもたちの学びの経験の質を高め、人間としての成長を生涯発達の見点から支えていくための理論と実践の構築を目指しています。その実現のために、学問的な理論の裏付けをもって実践的に指導していくことのできる教師の力を形成することが、教職大学院の重要な使命です。これまでの

修了生の皆さんが、本教職大学院で学んだ成果を遺憾なく発揮し、自らの力量形成に生かしながらそれぞれの場で活躍されているのは頼もしい限りです。

岩手大学教職大学院は、教師として自分の力量をより高めたいと願う誰に対しても開かれた魅力ある大学院として、これからも発展し続けていくことを確信し、自分もその一翼を担っていくことができればと思います。

